

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	ムセイオン静岡を通じた地域一体型教養教育と人材育成				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	鈴木 さやか
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・特任教授	氏名	富沢 壽勇
		所属・職名	国際関係学部・名誉教授	氏名	立田 洋司
		所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	細川 光洋
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	森 直香
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子
		所属・職名	短期大学部こども学科・教授	氏名	藤田 雅也
		所属・職名	短期大学部こども学科・講師	氏名	山本 学
	所属・職名	東京大学大学院人文社会系研究科・准教授	氏名	富澤 かな	
発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	鈴木 さやか	

講演題目	ムセイオン静岡を通じた地域一体型教養教育と人材育成
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>本研究は7つの文化教育機関（本学、県立美術館、県立中央図書館、県埋蔵文化財センター、舞台芸術センター（SPAC）、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム）の連携枠組みとして定着しつつある「ムセイオン静岡」を通じ、さらに地域社会とも連携しながら本学の教養教育を実験的に展開し、真の生きた教養教育とは何かを追究し実践して行くことが主たる目的である。具体的には、全学共通科目「舞台芸術」「MUSEUMと文化」「世界の文化遺産」などの授業を通じて、ムセイオン関連の文化教育機関と本学との人的交流を深め、地域社会で本学の文化教育活動における触媒的機能を高めるとともに、学生にはこれらの諸機関を通じて生きた教養を体得する機会を提供し、このような基盤形成による人材育成を目指している。そして、本学を中心にムセイオン静岡関連諸機関のヨコの連携とネットワーク作りを計りつつ、さらにタテ軸としての地域社会が有する文化資源、社会資本を教養教育に最大限に活用するモデルを構築することが本研究の重要な使命となっている。</p> <p>本プロジェクトによる交流事業として、今年度も「舞台芸術」「世界の文化遺産」で、静岡出身の国際的フルーティストである古川はるな氏を講師として三度招聘し、カンボジアや新疆ウイグル自治区での音楽活動をもととした講義と実演を実施した。これらの講義は、学生たちが音楽と地域の歴史との深い繋がりを音を通じて体感する貴重な機会となった。また、研究代表者の鈴木が顧問を務める学生有志団体「羽衣つたえ隊」は、SPAC俳優の指導のもと、静岡の貴重な知的文化財である能「羽衣」の普及に取り組み、朗読会やフランス・ルーアン市立コンセルヴァトワール（地方芸術学校）の学生との交流を行った。また研究分担者の細川は地域の文学館と協働し、静岡の文学を地域的資源として活用する「しずぶんプロジェクト」を展開した。本事業ではすでに恒例となったこどもプロジェクトでは、分担者の山本によるけんたんこどもの歌音楽会、分担者の藤田による世界児童画展を今年度も予定通り開催でき、異世代交流や異文化体験を本学学生や地域の親子に共有してもらう機会を提供し、地域社会にもだいふ根付いて来た。このほか、分担者の富沢と富澤は、いずれも静岡県立美術館協議会委員として同協議会に参加し、同美術館の現状と運営の観点から本学との更なる連携を企図した構想や提案について積極的な意見交換、情報交換を重ねてきた。これまでムセイオン事業で積み上げて来た人脈と経験知の活用と成果は着実に本学全体に普及浸透しつつある。このような一連の文化プロジェクトを通じて、関係諸機関や地域社会と連携した教養教育のモデルによる人材育成の方向性は相当に整備されつつあり、今後はこれをさらに定着させ、その裾野を拡大して行きたい。</p>